第１学年国語科学習指導案

指導者（所属）　○○　○○
（指導担当教員　○○　○○先生）

１．**日時**　202○年○月○日（○）　　第○校時（○：○～○：○）

２．**学年・組**　　第1学年○組　○名

３．**場所**　　第1学年○組　教室

４．**単元名**　　つながりの中で
　　題材名　　『星の花が降るころに』

５．**単元（または，題材）の目標**

（知識及び技能）

・事象や行為，心情を表す語句の量を増すとともに，語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
（言葉の特徴や使い方に関する事項ウ）

・比較や分類，関係付けなどの情報の整理の仕方，引用の仕方や出典の示し方について理解を深め，それらを使うことができる。（情報の扱い方に関する事項イ）

（思考力，判断力，表現力）

・場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えることができる。
（読むことイ）

・文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにすることができる。（読むことオ）

（学びに向かう力，人間性等）

・言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。
（学年目標(3)）

６．**単元（または，題材）について**

①教材観

本単元で扱う『星の花が降る頃に』は，主人公「私」の視点から物語が進む。登場人物が限られており，そこにどのようなやりとりがなされているかも読み取りやすい。また，主人公の語りで進んでいくため，どのようなことを考えたり思ったりしているかも読み取りやすい。これまで，生徒に自らの読みを記録・共有したり，そこから得た学びを振り返ったりすることを通して，個々の読みを意識させることを継続させてきた。本作品は，作品を読んでどのような感想を抱いたか，表現することが苦手な生徒においても，感想や気づきを外在化して表出させやすいものであるといえよう。そこから，それぞれの読みを自覚し，どのような視点で作品と向き合っていくかを考えさせることに適した教材であると考える。

場面展開や内容理解はたやすい作品であるとはいえ，初めの数行には1人称が出てこず，「夏実」と一体化したような「私」の語りが見受けられる。その後，不意に「私」の視点は，回想から現在のものへと移り，そこから物語が展開していく。主人公と友人の衝突が「私」目線で描かれているが，「夏実」の言葉や思いは文中に出てこないという特徴もある。生徒が疑問を抱いたり，探求したいと考えたりする視点や叙述は多く見いだすことができる作品といえる。

本単元では，それぞれの探究班で立てた問いとその「解」を，「報告書」を基にして共有する「報告会」を行う。文学的文章『星の花が降るころに』の作品内容に限定した問いではなく，作品を通して気づいたことやこれまで

に触れてきた文学的文章と比較して考えたいと思ったことなども「問い」に含むことで，より一層自らや自班の読みを確立していくことができるだろう。また，どのような経緯で問いに対する「解」を見出したかを説明し合うことを通して，読解の視点の多様さや，様々な読解方略にも生徒自らで気づかせていくことができると考えた。ここでいう「報告書」とは，学習用語として発表者が定めたもので，一つの学習課題に対する「解」の生成に関する経緯と，その集約を表現する成果物を指すこととし，「報告書」を用いた学習方法や単元を，「報告書」学習と記す。「報告書」という公的な文書としての性質を取り入れながら，その時々の学習課題について，定められた相手に向けて生徒が学びを「報告」するための用紙として設定している。この　「報告書」の内容および質については，事前に授業者も含め，生徒全員で確かな共通理解を持っている。

「報告書」を用いることで，①共通の学習課題および学習形態で，全員が課題と成果を得ることができる。②相手意識を持って自らの考えを表現することになる。③枠の指定があり，長い文章での表現が難しいため，要点を押さえて，簡潔にまとめる力も必要になる。④その意見を得るまでの経緯と結果がひとめでわかる。という利点がある。こういった利点を持つ「報告書」を用いた学習を取り入れることで，生徒に，資質・能力を育みながら学習意義を実感させることができるのではないかと考えた。

②生徒観

国語科学習において，生徒は自らの気づきを書き残し，単元末に振り返ったり，他単元と比較したりして自らの考えの変遷に気づくことや，他者と自らの考えの違いを知り，視野を広げたり深めたりすることを重視して授業を重ねてきた。そのため，生徒は，自らの考えを根拠も含めて記述したり伝えたりすることに積極的であり，他者の意見を聞いて自分がどう考えるかを表現することもできるようになりつつある。

また，生徒はこれまで，「報告書」を用いて問いに対する「解」を得て，その気づきを共有し合う学びを積み重ねてきている。文学的文章において，どのように読めばよいのか，読解方略に関する知識を少しずつ手に入れ，それを基に，自ら問いを立てて作品と向き合うことができるようになりつつある。自分がどのような視点で作品と向き合い，読みを深めるかを決めることは，今回で2回目の取り組みとなる。

それぞれの班で，同じ視点で読みたいと考えた者ばかりが集まった班と，そうでない班とがある。問いをどのように定めたか，そして，その問いの「解」をどのように見出してきたかも班により異なる。それぞれの班で得た学びが「報告書」に現れると同時に，それを説明する行為を通して，学びの道のりや読みの視点・方略も共有し合うことができると考える。その際，「報告書」に書いてあることを読み上げるだけではなく，そこに書き切れていないことを自らの言葉で説明を行うことが難しい生徒もいる。他の班から集まっている聞き手の中から，知りたいことや説明してほしいことを出させることで，説明を得意としない生徒も，どのような学びの道のりをたどってきたか，説明することができるようになるのではないか，と考える。

1年生の序盤では，作品から得た学びや気づきを表現する際，作品中に直接語句で表現されている言葉を抜き出して，自らの読みとしている生徒が多かった。しかし，自らが何に着目して読んでいるのか，どのようなことに注目して作品を捉えているのか，ということを自覚することができるようになりつつある。それらを「報告書」に表出させることを通して，それぞれの読みの視点を意識しながらどのような読みをしたかを共有できるだろう。それにより，どのような視点から作品に向き合うと，どのような気づきや読みに到達するか，という読みの視点から見えてくるものの違いにも気づかせ，それを意識しながら意見共有ができるようになることを求める。

③指導観

これまでに触れた様々な文章を想起しながら作品を読み深めたり，作品を通して考えを広げたりすると同時に，互いの気づきを共有して，得られた学びや考えを意味づける学習を行う。そのために，それぞれの探究班で立てた問いとその「解」を，「報告書」を基にして共有する「報告会」を行う。

「報告書」は，その時々の学習課題に関して経緯と結果を「報告」するものである。「報告書」学習では，①各班（もしくは各自）で，問いを立て，問いに対する「解」を創出する，②それぞれの班を解体して，バラバラの班から寄り集まったメンバーで「報告会」を行う，③「解」を創出した班に戻り，「報告会」で得られた気づきを自班で共有する，という流れを取り入れている。

「報告書」を作成したり，「報告会」を行ったりするためには，“自らの考えを把握・理解すること”，“自らで「問い」を立てながら学ぶこと”，“なぜその考えに至ったのか”，“根拠を示すこと”，“考えを「見える化」すること”，“誰に何を伝えるのか，明確にすること”，が欠かせない。　自らの考えを把握・理解することで生徒は何を学び，何を考えているかをメタ認知することとなる。また，「問い」を立てながら学ぶことで，生徒が自らの考えを構築し，

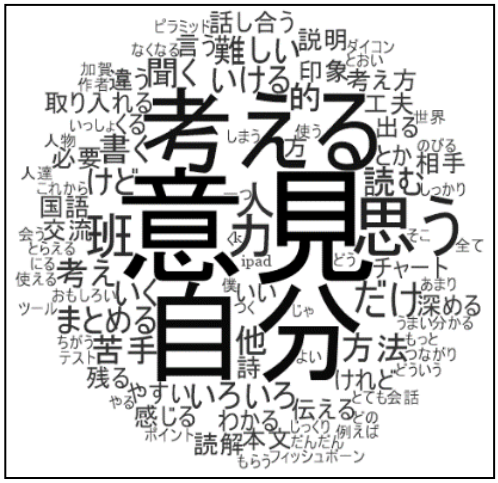
自ら学びに向き合い，考えを育てていくこととなるだろう。これは，学習意義を意識・実感する第一歩となりうると考える。

そして，その自らの考えを立論し，他者に伝えようとすることで学びは明確化され，生徒自らの学びの自覚に繋がる。さらに，その自らの考えを「見える」化し，自らの考えを再構築することを通して，考えの共有度が上がり，他者との対話の中で学びの達成感は高くなるだろう。また，全員が同じ学習課題に取り組んでも，個々の学びや表現方法に応じて，生徒それぞれが個別の課題と成果を得ることができる。そのため，共通した学習課題に取り組みながら，生徒全員が自らの苦手を意識したり，単元の前後で何ができるようになったかを自覚したりすることができるようになると考える。

生徒はこれまでにも「報告書」学習に取り組んできた。対象学級39名に質問紙調査を実施したところ，

問1:「報告書」を書くことの意味や効果を感じていますか？感じていませんか？
…感じている　37名　／　感じているが，なくてもよい　2名
問２：バラバラ班での「報告会」の意味や効果を感じていますか？感じていませんか？
…感じている　３２名
感じているが，改善したい点もある　６名　／　感じていない　１名
問３：【1「報告書」を書くこと／1「報告会」をすること／1「報告会」のあとに，自班に戻って意見共有をすること】の中で，最も自分に合っていると思うものはどれですか？
…①１１名②１４名③１５名（②，③両方を選択した生徒が１名いたため②，③にカウントした。）

という解答結果が得られた。



また，国語科における「読むこと」の学習において問いを立てるということをどのように考えていますか？　という問いに対する生徒の自由記述を，様々な観点から分類して分析したところ，生徒は，問いを立てることによって，多様な視点から考えや視野を広げることができ，学びが深まると考えていることが明らかになった。また，自らが作品を読むことに主体的になることができ，読みや理解が深まるととらえているようであった。

問4「読むこと」の学習において問いを立てるということをどのように考えていますか？における生徒の自由記述内容の語句に関して，頻出度を基に重み付けを行ったものが左図である。ここから，「読むこと」の学習において，問いを立てることで，自ら考えたり，自ら意見を構築したりできる，という記述内容が多かったことがわかる。

本単元では，前時に引き続き「報告会」を行う。ここでいう「報告」とは，学習指導要領における「様々な事実や出来事を伝えること」に留まるものではない。自らの考えを構築し，それを伝え合う際に共通点・相違点などを明確にして，互いの考えをきちんと理解しながら共有をはかることを「報告」と捉えることを生徒と確認した。

「新しい時代の初等中等教育の在り方について」の諮問概要には，Society5.0 時代の教育・学校・教師の在り方として，「一人一人の能力，適性等に応じた学び」や，「子供たちの意欲を高めやりたいことを深められる学び」の実現が必要であるとされている。「報告書」学習では，自らの考えを持ち，表現することに留まらず，どこから，なぜ，どのようにそう考えたのか，を「報告書」を用いることで互いに理解し合いながら共有することができる。そして，互いの考えを知るだけでなく，意見を述べ合うことを通して，一層自らの考えを確立したり，修正・更新したりして再構築していくことができる。これは，自らの考えを構築し，共有を通して自らの考えを再構築し，そこから新たな問いや考えを持つ，というサイクルにもつながっていくことを望む。

７．単元（または，題材）の評価規準

知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現	主体的に学習に取り組む態度
・作品に用いられている表現や語句を，辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して理解している。 ・適切に引用をして，他者との意見共有を行っている。	・自らの立てた問いに対する解を，描写を基に考えることができている。 ・「報告会」や探究班に戻っての意見共有を通して，自らの気づきを他者に伝えることを意識して表現できている。	・単元全体の学びを振り返り，何をどこから得て，どんなことを考えたのか表現することができている。

８．指導と評価の計画（全７時間）

次	時	ねらい ・ 学習活動	評価規準 ・ 評価方法等
1	1	「作品を通読し，初読の気づきを表現すると共に，読みの視点を定める。」 ・作品を通読して，考えたり気づいたりしたことを全て記録しよう。 ・どのような視点や着目点で読み深めるかを考えよう。	・作品に用いられている表現や語句を理解し，読み味わうことができているか。（学習記録／【知識・技能】 ・根拠を明確にして初読の気づきを表現することができているか。（学習記録／【思考・判断・表現】
2	2	「作品を読み深めたり，作品を通して考えを構築したりするための問いを立て，「解」を得るための，探究の計画を立てる。」 ・それぞれの視点から，作品を読み深めたり，作品を通して自らの考えを構築したりできるような問いを考えよう。 ・どのようにすれば，その問いに対する「解」が得られるか，探究の計画を立てよう。	・班で立てた問いを軸にしながら，文章の構成や展開，表現の効果を考え，根拠を明確にして自らの読みを深めることができているか。（意見共有・学習記録・振り返りシート／【思考・判断・表現】
	3 4	「班の問いに対する「解」を，経緯も含めて共有できるよう「報告書」に表現する。」 ・班の問いに対する「解」を，経緯も含めて共有できるように意識して「報告書」に記そう。	・問いに対する「解」とその経緯を伝えるために，根拠を明確にして，表現や表記を選んで「報告書」を書くことができているか。（「報告書」／【思考・判断・表現】） ・気づいたことを表現や伝え方意識しながら相手に伝えたり，他者の気づきを丁寧に聞こうとできているか。（意見共有・「報告書」／【主体的に学習に取り組む態度】）
3	5 6 (本時)	「報告会」を通して，それぞれの班の「解」と，それに至るまでの経緯を共有する。」 ・「報告会」を通して，互いの問いと「解」と，それを通して得た考えを共有し合い，気づきや学びを深めよう。	・必要に応じて共有メモを取ったり相手の意見を引き出したりしながら話の内容を捉え，共通点や相違点などを踏まえて，自分の考えを持つことができているか。（意見共有・学習記録・振り返りシート／【思考・判断・表現】） ・言葉を通じて積極的に意見を共有し，自らの気づきを確かなものにし，言葉の持つ力について考えを持つことができているか。（意見共有・学習記録・振り返りシート／【主体的に学習に取り組む態度】）

4	7	「本単元を通して得た気づきや学びを表現，共有して学びを振り返る。」 ・単元を通して気づいたり考えたりしたことを振り返り，得られた学びを振り返ろう。	・作品を主体的に読み，気づきを深めるだけでなく文学作品の工夫や面白さを見出すことができているか。（学習記録・振り返りシート／【思考・判断・表現】） ・単元全体の学びを振り返り，何をどこから得て，どんなことを考えたのか表現できているか。（学習記録・振り返りシート／【主体的に学習に取り組む態度】）

９．本時の学習

①本時の目標

「報告会」を通して，それぞれの班の「解」とそれに至るまでの経緯を共有し，どのような気づきや考えが得られたかを捉える。

②本時について

今回，生徒たちは自らがどのような視点でこの単元での学びを深めていきたいかを自らで選び，そこから作品内容に留まらないそれぞれの問いを立て，「解」を創出する。まず，自らで学びの視点を定めることも生徒にとっては「未知の状況」となりうるだろう。また，作品中の表現や作品内容にとどまらない問いと，「解」に至るまでの経緯を踏まえた「解」を「報告会」を通して共有し合うという「未知の状況」を生み出し，考えの及んでいなかった部分についても視野を広げることをねらう。

③本時の展開　　○主なる指示・発問

	学習活動と内容【主語は学習者】 （予想される生徒の反応）	指導上の留意点・支援【主語は教師】 （教師の活動）	評価方法
導入	○単元全体の目標と，本時の目標を確認する。 ≪全体の目標≫ 「これまでに触れた様々な文章を想起しながら作品の内外を読み深め，互いの考えを共有する。」 ＜本時の目標＞ 『「報告会」を通して，互いの問いと「解」と，それを通して得た考えを共有し合い，気づきや学びを深めよう。』 （これまでの学習記録や振り返りシートを見返し，学習の流れや自らの考えの経緯をたどる。）	・単元全体の目標と，本時の目標を，出席番号を基に指名し，音読させる。	
	○単元全体の流れを振り返る。また，本時の流れを知り，本時の活動の展望を持つ。 （本時の活動の中で特に何を他者に伝えようとするのか，自らの学習記録をもと	・単元全体の流れを総括し，本時の流れを伝える。	

	に考えを持つ。）	・「報告書」冊子をそれぞれが持ちながらの共有となるため，メモを書き取ることに重点を置かず，発表者の発表内容をよく聞くことを大切にすることをおさえる。 ・発表者も，「報告書」に書かれていることを読み上げるのではなく，書き切れていない気づきや，他班から意見を求めたいことに重点を置いて「報告会」をすることを指示する。	
展開	○「報告会」の座席に移動する。 ○それぞれの班で，「報告会」を行う。 （他班の問いと「解」，「解」に至るまでの経緯を聞き合い，自班の探究方法との違いや視点の違いをもとにして作品に対する気づきを深める。）	・「報告書」を作成したそれぞれ班から一人ずつが集まるようにし，「報告会」の班を編成する。 ・「解」にたどり着くまでにどのような箇所に着目し，どのような根拠を持って「解」を創出したかを共有できるよう意識させると同時に，自班では解決できなかったことや，他班からの意見が欲しいことについて，問いかけるよう意識させる。 ・『「報告会」を通して，互いの問いと「解」と，それを通して得た考えを共有し合い，気づきや学びを深めよう。』，というめあてを基にして，自班の「解」をわかりやすく伝えることと，他班の「解」を経緯も含めて理解することを意識させる。	・作品内容に留まらないそれぞれの問いと「解」，「解」に至るまでの経緯を「報告会」を通して共有し合い，考えの及んでいなかった部分についても視野を広げることができたか。
振り返り	○探究班に戻り，他班から得た意見や視点を共有し，問いや「解」について再度意見共有を行う。また自班の問いと「解」に限定せず，「報告会」を通して得た気づきや考えを共有する。 ○各自，振り返りシートに本時の気づきを記入する。	・「報告書」を作成した探究班に戻り，「報告会」で得られた気づきや考えを共有し合うよう指示する。また，自班の問いと「解」に対して，新たな考えがあればそれも出し合わせる。 「４時間の学びや気づきをふまえて，筆者の意見や説明的文章に対する自らの考えを記	・互いの「解」と，それに至るまでの経緯と，そこからどんなことを考えたり気づいたりしたかを共有して，外在化することを通し，

		録しよう。」	学びを自覚すると共に，次時への展望を持つことができたか。

④板書計画

⑤資料等

特になし

⑥準備物

【授業者】教科書・「報告書」冊子・ホワイトボードペン・PC・PPT データ・ルーズリーフ・筆記用具

【生徒】 教科書・資料集・ルーズリーフ・「報告書」冊子・筆記用具